3

あかんこおんせん

阿寒湖温泉

（北海道釧路市）

注目　ポイント　！

○　まりもが眠る阿寒湖を、国際的なレイクサイドリゾートへ。

○　行政、ＮＰＯ等の民間、住民の3者が協働して観光まちづくりを推進。

外国人宿泊客数が約2万人から約6万人に！
（平成9年度）（平成16年度）

雄阿寒岳から望む阿寒湖

◇◇ コラム ◇◇

「無私厚情による人材再生のカリスマ」として観光カリスマに選定。NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構では、まちづくり本部長として、地域観光振興計画に基づく外客誘致事業による、阿寒湖温泉VJCSの設立やFMラジオによる観光施設の外国語ガイドなど先駆的な取り組みをリードしている。

(株)阿寒グランドホテル
代表取締役
観光カリスマ　大西　雅之氏

これまでの経緯

平成１０年（１９９８）	道東地域の周遊バス「ホワイトエクスプレス」の運行を開始する。
平成１４年（２００２）	阿寒湖温泉再生プラン2010が策定され、2泊3日できるレイクサイドリゾートを目標とする観光まちづくりの取り組みを開始する。
平成１６年（２００４）	新たな交通システム構築と温泉街活性化のための社会実験に取り組む。
平成１７年（２００５）	釧路市･音別町との3市町合併により釧路市となる。 観光協会とまちづくり協議会が組織統合し、阿寒観光協会まちづくり推進機構を設立する。後にNPO法人格を取得する。 阿寒湖温泉VJCSが設立され、地域の観光関係者を対象にした外国語講座を開始する。 温泉街循環バス「まりむ号」の運行を開始する。 観光遊覧船とアイヌ古式舞踊劇場において、外国語ガイドを開始する。

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

ホワイトエクスプレス

観光カリスマの大西氏らが中心となって設立した「ひがし北海道観光事業開発協議会」が主体となり、冬季の移動円滑化のため、阿寒湖温泉をはじめ知床・十勝川・層雲峡などの観光拠点を結ぶ周遊バス「ホワイトエクスプレス」を運行。あわせて花火等のイベントを実施し、冬季の観光魅力の増進を図る。

阿寒湖氷上フェスティバルの様子

外国語講座

外国人サポーター「阿寒湖温泉VJCS」

NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構が主体となり、阿寒湖温泉在住の外国人等により組織。外国人旅行者へのホスピタリティ向上のため、外国語講座の開催や通訳サービス、パンフレットの翻訳等を担う。（VJCSとは、ビジット・ジャパン・キャンペーン・サポーターズの略称。）

温泉街循環バス「まりむ号」

外国人旅行者の行動範囲拡大と滞在中の満足度向上のため、外国語によるガイドサービスを行う温泉街循環バス「まりむ号」を運行。（平成17年度利用者数13,550人）

まりむ号ガイド

観光施設の外国語ガイド

外国人旅行者の満足度向上のため、阿寒湖温泉の二大観光施設である観光遊覧船とアイヌ古式舞踊劇場オンネチセにおいて外国語ガイドをFMラジオにより提供。
（オンネチセとは、アイヌ語で「大きな家」という意味。）

FMガイド配布：遊覧船

問い合わせ先

○釧路市阿寒町行政センター観光振興課
Tel：0154－67－2505　http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/
○NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構
Tel：0154－67－2254　http://www.lake-akan.com/